

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、事業所理念をよく見える所に掲示、職員会議などで確認し、実践につながるような計画づくりやサービスに努めている。	毎年事業計画について話し合い、今年度は「共同生活の中で助け合いながら、生活能力や身体機能の維持向上を図る」ことを目指して共有と実践に努めています。	地域密着型サービスとしての意義をふまえ、事業所独自の理念をもとに、年度毎に具体的目標を定め、ケアに活かしていられることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕風会全体行事やGHの外出、地域ボランティアの協力により、地域の一員としてつながりが保てる様努力している。	グループ全体行事に参加を呼びかけ、セラピードッグ・絵手紙クラブ・幼稚園児・研修生の受け入れ、1階地域交流ホールでの喫茶室(ボランティアが協力)、付近への外出時の挨拶などつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からのお問い合わせや、各種ネットワークの情報公開をはじめ、地区の実習生の受け入れなど行い理解や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数は少なかったが、23年度の事業報告と事業所の設備など報告し、話し合いで出た意見をサービスに生かせる様努めている。	今年度は1回開催し、報告や話し合いを持っています。開催を呼びかけてはいるけれど、なかなかメンバーが揃わず、苦勞しているようです。	家族会や地域ケア会議、各種行事などの際に少しずつでも時間を見つけて開催し、徐々に広げていき、サービス向上に活用されることを願っています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例や新しい制度など、市の担当者や地域包括支援センターとの連携を取っている。	新制度や困難事例の対応などについて相談したり、成年後見制度の活用についてたずねたり、良好な協力関係が築けるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのハンドブックを時々見たり、内部研修し意識を高めている。玄関の施錠はない。	身体拘束ゼロハンドブックを活用し、研修や会議などで確認し、言葉掛けや態度に注意し、出入口の施錠を含め身体拘束をしないケアを目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律については学ぶ機会はないが、夕風会の法令順守と行動規範(コンプライアンスルール)による話し合いにより、注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度成年後見制度を利用された入居者の入所により、市や包括支援センターと連携をとりながら、職員会議でも制度を取り上げ理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて、説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、お手紙などで、意見要望等いつでも受ける事をお伝えし、面会時にお聞きしている。あればすぐに日誌等に記録し運営に反映させる様努めている。	面会時にコミュニケーションをとりながら話を聞き、家族会や手紙・電話などでの意見や要望を受け、日誌などに記録し、運営に反映させるよう心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GHの職員会議やそれ以外でもいつでも意見の言える雰囲気作りに努めている。代表者もすぐ動いてくれる。	和やかで話しやすい雰囲気があり、代表者が毎回会議に参加し、手すりの増設や寒くて入浴を嫌がる利用者のため、パネルヒーターを取り付けて改善するなど、意見や提案をすぐ反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮してもらえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いつでも研修に出られるよう配慮がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会があり、自由に勉強会に参加させてもらえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活史や性格、趣味など前もって情報収集し、入所されてからは、傾聴、共感に徹し、不安を取り除くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階での御家族の不安や要望に耳を傾け、安心信頼を得られる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今一番必要な支援が何なのかを他のサービス利用を含めて見極め、真摯に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何が出来るか、どう支援すれば出来るかを全職員で話し合い、関わっていく努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にゆったりと過していただく為に、家族の意見を積極的に取り入れ、安心していただける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のご近所の方の訪問があったり、地域のなじみの場所に外出したりと、入居以前とあまり変わらないよう努力している。	近所の方が尋ねてきてくれたり、電話で話をしたり、地域の中でよく訪れたことのある懐かしい場所へ外出したり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	野菜の収穫を喜びあったり、レクやお手伝いを通じて係わり合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情に合わせて、ご家族と話し合いを持ち、出来る限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添いケアで本人の思いを引き出し、カンファレンスにて検討、支援に生かしている。	言葉や態度・表情など敏感に反応する利用者がおられ、まるで鏡を見るように自分の言動が試されていると感ずることがあるそうです。傾聴・観察に努め、波長を合わせ、意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの入所以前の生活歴やなじみの暮らし方、生活環境など、他の機関との連携や家族を通じて把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、毎食時残量、介護日誌の送り、本人との会話、行動の様子などから現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医の意見をとり入れ、全職員で会議して作成する様にしている。	定期的にモニタリングを実施し、必要時にはその都度、本人・家族・主治医・担当者など関係者と話し合い、意見や提案を反映した介護計画を作成するようになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな変化も申し送り、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに生かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のあらゆる状況からうまれるニーズに対して、柔軟に真摯に対応できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりが地域資源との関わりが持てるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力もあり、かかりつけ医との信頼関係は築けている。	認知症の専門医をはじめ、隣接の医師の訪問診療もあり、夜間・緊急の対応もされています。家族やスタッフの同行により、従来のかかりつけ医との連携が保たれており、適切な支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアハウス棟の看護師との協力体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者入院時の医療機関との情報交換や、退院前のカンファレンスに参加するなど良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では特養があるので機会はないが今後に向けての勉強は必要になってくると思う。	関連施設が整備されてはいるが、できるだけ長く現在の事業所内で生活したいと数名の利用者が希望しており、今後に向けて、重度化や終末期、緊急時の対応等、家族・医療・関係機関との連携が重要課題と捉えています。	終末期や急変時にいつでも対応できるよう、知識や技術を磨き、家族や関係機関との連携をとりながら、話し合いをくり返し、チームで支援にあたられるよう望んでいます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修は全職員済んでいるが、定期的に訓練の必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、昼間を想定しての避難訓練を年に2回行っている。	消防団・併設の施設と協力して年2回訓練を実施しています。非常食の準備や自家発電、3階から1階までのスロープパイプなども整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定せず、説得せず、声かけに立ち止まり、笑顔で傾聴共感に努めている。	トイレに丈の長いカーテンをつるして人目に触れないように配慮しています。言葉掛けに気を配り、一人ひとりに向き合い、プライバシーや尊厳の保持に努めている様子が窺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定も含めて、表情、しぐさ、会話などから思いを察し、表出できる様な支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所以前の暮らしと大きく変わる事のない様、混乱を招くことのない様に、個人のペースを大切にした支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧したり、好みの洋服が選べたり入所以前の生活習慣を尊重した支援に努めているが変更せざるを得ない場合はご本人に理解、協力をお願いする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操や準備、片付けを一緒にすることにより食事が楽しみになる様な支援に努めている。	昼食は階下から運び、朝・夕食は手作りしています。準備片付けなど一緒に行い、時には4階テラスで景色を眺めながら食事しています。行事食や誕生日の手作りケーキ、ホテルでの喫茶など楽しみにしているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの看護師、栄養士の助言を取り入れ支援の方法を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っているが、専門ではない為完璧ではないので今後の課題になる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おしめの方や、立位のとれない方も日勤帯ではトイレで排泄している。	日中はできるだけトイレでの排泄を心がけており、立位保持が困難な利用者には2人対応をしています。パターンを把握し、気配を感じ取り、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、さつま芋、かぼちゃ等を頻繁に食事に出したり、のの字のマッサージ、下剤の服用など、個々の予防の取り組みに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や体調を考慮した上で出来るだけ柔軟な支援を行うよう努めている。	4階の浴室からは、一面のガラス戸越しに遠く四季折々の景色が眺められ、露天風呂の風情があります。。寒さ対策で大きなパネルヒーターが取り付けられ、拒否者もなく、入浴を楽しみにしておられるようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休憩や、就寝のタイミング等、一人ひとりのペースを尊重して支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてのご質問があれば本人の個人カルテから、説明書をお見せする。症状の変化があればすぐ、家族や主治医と連携をとる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中から、またご家族の情報などから、嗜好品や楽しみごとを見つけ、支援させていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠隔地への外出はご家族の協力をいただいているが、地域周辺の外出は2ヶ月に1回位、皆で出かけている。	遠出には家族の協力を得ながら、2ヶ月に1度皆で周辺をドライブしています。屋上テラスには、花を植え、ジャガイモやサツマイモを育て(毎年大量の収穫)、食事に供されています。1階ホールでの喫茶室や映画鑑賞会、各種行事など日常的によく出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所で行うが、外出時や趣味の物はいつでも本人の意思で使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日、誕生日などの贈り物のお礼や、遠方の家族との電話に、ご本人が出られる様、また手紙についても支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく、季節感あふれる空間作りに努めている。壁に行事の写真や塗り絵の作品を掲示し楽しんでいただいている。	玄関を入ると季節を感じさせる桃の花が生けられ、写真や塗り絵が貼られたリビングは見通しがよく、ガラス戸から屋上テラスに自由に入ることができます。4階建ての建物の最上階にあり、眺めがよく、明るく伸びやかな居心地のよい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居心地の良い場所で、自由な時間を過したり、気の合う入居者同士触れ合える様支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意見要望を取り入れ、安全性を考慮した上で、居心地の良い居室作りに努めている。	居室には水道が設置されており、利用者の状態に合わせてベッドの高さを調節しており、細やかな配慮がされています。家族の写真や絵手紙など思い思いに貼り、それぞれの意向が活かされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、大きな目印、バリアフリー等安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう支援に努めている。		